

ジャンボ渡辺の学 富士山

富士山の世界文化遺産登録から約2年半が経過し、過熱気味だった富士山人気は落ち着きを取り戻したように思います。ここで改めて、富士山の価値と登録の意義をふり返りたいと思います。

「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」。これが2013年6月、世界文化遺産に登録された時の正式名称です。「世界の宝物」として評価されたのは、信仰の山であり、芸術のセンスを刺激する美しい景観を併せ持つ、という2点でした。万葉の昔から、「不二山」（ふたつとない美しい山）、「不尽山」（素晴らしさの尽きない山）と書かれてきました。

世界文化遺産登録の意義



渡辺豊博さん

信仰と芸術に大きな影響

25カ所ある構成資産の一つ、山宮浅間神社（静岡県富士宮市）には、本殿に当たる建物がありません。富士山を望む遥拝所に、長さ約1.5キロの細長い火山弾が置かれているだけです。遠くに見える富士山そのものがご神体で、噴火が治まることを願った古代の信仰の形をとどめています。

同市内の村山浅間神社は、境内に、仏教と神道の施設が共存しています。米国やニュージーランドの自然保護官を案内したことがあるのですが、イスラム教とプロテスタントが共存するような状況に驚いていました。明治時代に全国で廃仏毀釈運動が進み、

仏教の分離が進められました。しかしこの神社では、地域の人たちが「どちらも正しい、必要だ」という価値観で守り抜いたそうです。

以前調べたことがあるのですが、山梨・静岡両県の山麓には、合わせて約150カ所の宗教団体施設があります。多くの人が富士山を崇拜し、自身を投影して「生き方」や「人間とは何か」を考える対象物としてとらえてきたのです。神聖な山なので、登る際のごみ・し尿の持ち帰りは当然でしょう。



白装束で富士山頂まで登った富士講の信者たち。2006年8月、渡辺豊博さん提供



山宮浅間神社の遥拝所から富士山が見える。2013年1月、静岡県富士宮市山宮

葛飾北斎の富嶽三十六景や横山大観の日本画、岡田紅陽の写真などに代表される富士山の芸術作品は、多くの人を魅了してきました。富士山ほど、多くの人の芸術的センスを刺激した対象は他に無いと思います。絵を描きたい、詩に詠みたいなどと、人々に思わせてきました。

こうして考えると、「世界の宝」は大切にすべき大きな存在だとわかります。平安時代の貞観噴火（864年）の際には、時の天皇が噴火を鎮めようと神社を造らせ、徳川家康も噴火を恐れ、8合目以上の領地を富士浅間神社に寄贈したといわれています。

富士山は、単に大勢の観光客に来てもらい、観光収入を上げるための存在ではありません。信仰の対象、芸術の源泉としてあった大きな存在の意味を、改めて考えてもらいたいと思います。

（わたなべ・とよひろ
都留文科大教授）